

エヌエムシイ 4月から「在宅スタッフ活用」のセミナー 導入メリット、運用マニュアルを大公開

慢性的な人材不足が続く会計業界において、在宅での人材登用が注目されている。人材採用サイトでも、会計事務所が在宅ワーカーを募集する例が目立ってきた。ただ、採用はもちろん管理や運用の仕組みが備わっていないければ、せっかくの在宅人材も活かさない。

会計事務所での在宅活用ノウハウを提供する(株)エヌエムシイ(東京・中野区)では、『日本一わかりやすい!「在宅スタッフ活用」セミナー』を、4月から6月にかけて計6回、東京、名古屋、大阪、岡山、福岡の各会場で開催する。同社では、2011年より税理士法人を中核としたエヌエムシイグループ内で在宅勤務を含めた業務改善を実施し、それにより蓄積された在宅スタッフの活用ノウハウを全国の会計事務所に提供している。

これまで開催してきたセミナーのアンケート調査によると、在宅スタッフを活用して取り組みたいことや解決したいことについて、「付加価値の高い仕事に注力したい」「担当件数を増やせる仕組みを作りたい」「顧客拡大に専念したい」「新しい働き方の仕組みを作りたい」という声が多く、意外にも「欠員補充」は少ない。在宅スタッフの活用は単に“欠員補充の手段”として捉えるのではなく、事務所職員の“潜在能力”を最大限に引き出す点にメリットを感じて欲しい、としている。

在宅スタッフへの一般的な業務依頼は、代行入力や入力データチェック、各種届出作成、年末調整や給与計算等。「担当者の大幅な入力業務の削減により残業体質から脱却し、職員採用や人材教育の

悩みから解放されることが導入メリット。これにより、従業員の満足度向上やモチベーションアップの効果も期待できる」(木村哲也 株式会社エヌエムシイ執行役員)という。

同社では、「在宅スタッフの紹介」「業務ルールをまとめたマニュアルやツールの提供」「スタートアップの業務支援」をセットにした「在宅つくす®」を開発し、全国の会計事務所に活用を呼び掛けている。特徴的なのは、在宅スタッフの面接・選考から教育までを、エヌエムシイが代行してくれることにある。「会計事務所経験者から、書類選考、面接、スキルテストをパスした人材を会計事務所に紹介する。記帳代行の利用例では月平均で人件費は約5万円(※)」とのことで、なかには、約半年間で在宅スタッフを2名から4名に増員した事務所も。その事務所の記帳入力例では、1件当たり438の仕訳数で仕訳単価も平均11円台と報告されており、在宅スタッフを出来高制にすることで、人材コストを変動費化するメリットもある。

セミナーでは、税理士法人の先行事例を基に、現場で働く職員の声、即戦力となる在宅スタッフを送り出す工程、成長軌道に乗った事務所事例等が公開される。

現在、全国で80を超す会計事務所がこのサービスを利用している。従来の雇用形態に固執しない「在宅ワーク」は今後も増えることが予測され、会計事務所も新しい人材活用のかたちを検討できそうだ。

※1社あたりの平均報酬3,700円×15社担当(仕訳数約250の会社を月15社処理)と試算。